

# 東北ヘルプ ニュースレター

## 2024年 秋号

巻頭言

1頁

「風化に抗う」

被災支援の日々の報告

2～3頁

なつかしい「同窓会」

大川と雄勝を、牧師と僧侶で再訪する

5～8頁

自分の言葉で、子どもたちを守るために

「はっぴーあいらんどネットワーク」の学習会

9～12頁

風化に抗うために、歩く

トレッキングのお誘い

13頁

風化に抗うための読書

「放射能問題学習会」のお誘い

14頁

献金感謝

15～16頁

会計・財務報告

17～18頁



# 巻頭言

東北ヘルプ「ニュースレター」2024年秋号をお送りします。

東北ヘルプは、2011年からずっと、ニュースレターを発刊しています。私たちの働きは、被災地と全国・全世界をつなぐことにあり、ずっと心して参りました。それで、このニュースレターこそ、実は、基幹事業のひとつと位置付けてきたのです。

最初、何もわからないものですから、親しいプロの方にお手伝いを頂きました。ほどなく、経費削減のために、私・川上が取材から印刷までの全体を担い、東北ヘルプのスタッフ総出での発送を行うようになりました。そしてその後、スタッフが「ゼロ」となり、ボランティアで発送の手配をして頂ける方が起こされ、今に至っています。

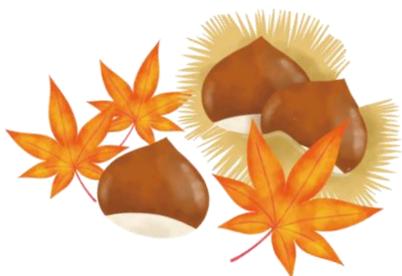
最初は白黒の印刷でした。プロが関わってくださる間は、白黒でも見事な出来栄になりますが、私が編集を担当するようになると、見劣りは否めませんでした。そこに「印刷革命」が起こります。オンラインの印刷を活用しますと、カラーでもかなり値段が落とせる。紙質も（毎回、バラつくのは難なのですが）とても上質なものとなりました。ページ数も、同じ値段で増やすことができ、そうして、毎回のニュースレターを充実したものとすることが可能になったのでした。

しかし、2023年、大きな転機が訪れます。それまで活用していた「クロネコDM便」というサービスが終了し、突然、郵送料が3倍以上に跳ね上がってしまいました。対応が遅れ、2024年イースター号の送料は、東北ヘルプの会計にとって、重大な負担になってしまいました。

そこで、また東北ヘルプ理事会で知恵をお出しいただき、今回、新しい方法を（新しボランティアを賜りつつ）試しています。その結果、いささか、発送が遅くなりました。そして、一冊の分量を減らす必要が生まれました。「250g」を越えなければ、以前とほぼ同じ値段で発送できるのです。

そうして、今回のニュースレターをお送りします。今までと違い、できるだけ簡潔に・簡略に記すことを目指しました。ページは前回の半分程度です。その分、内容が豊かになるように、努力しました。目標は、「風化に抗う」です。

是非、ご高覧いただき、祈りに支えられつつ進む東北の被災地の今を知っていただく機会となれば、本当に幸いに存じます。



2024年9月17日  
中秋の名月の夜に  
東北ヘルプ代表 川上直哉

# 「風化に抗う」

## 被災地支援の日々の報告

紙幅の限界を考えまして、以下、この半年の「東北ヘルプ」の主な活動を日程順に略記し、報告します。すべては「風化に抗う」努力でした。皆様のご支援によって、こうした活動が続けられます。深く、感謝しつつ、報告いたします。

2024年9月15日 川上直哉 記

### 4月2日(火)

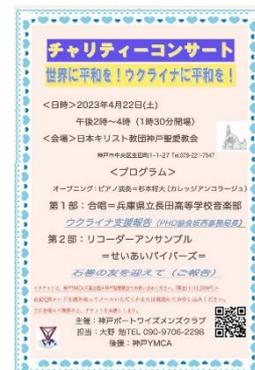
食品放射能計測所「いのり」と、震災以来、土壌の放射能汚染を計測し、そのデータの公開に尽力されてきた「みんなのデータサイト」のみなさまとの会議を、郡山計測所で主宰しました。新しい可能性を感じた良い会議でした。

### 4月9日(火)

キリスト全国災害支援ネットの役員会にオンラインで出席しました。被災地で私たちが学んだ事柄を、少しでも多く、後代に繋げられればという祈りが、少しずつ、聞かれています。

### 4月27日(土)

ワイズメンズクラブ（YMCAの後援団体）による神戸でのチャリティーコンサートに協力し、東北ヘルプのニュースレターを用いて、今の被災地の報告をしました。神戸の皆様の「風化しない」思いに、強く力づけられたことでした。



### 5月1~4日(水~土)

ワイズメンズクラブの「能登支援」に協力し、輪島市の避難所と仮設住宅で支援活動に参加しました。「3.11」を思い出し、「現場の必要」にもう一度敏感になれた、とても貴重な体験でした。

### 5月6日(月)

被災地の復興を目指して整備された「みちのく潮風トレイル」を歩きました。このトレイルは、被災地の今を丁寧に体感する良い時です。この後は8月31日に行い、そして次回は11月4日(月)となりました。(この11月4日に仙台に9時頃お越しになれる方は、どなたでも、ご参加いただけます。詳しくは、どうぞ、本誌13ページをご覧ください。)

### 5月8日(水)

世界宗教者平和会議（WCRP）の担当者の方が石巻を訪問くださいました。WCRP様として「災害時タスクフォース」を常設化する、との事で、川上に委員となってほしい旨の依頼に來られました。「3.11」で学んだ事柄を後代に伝える機会を、また一つ、賜ったことでした。この「タスクフォース」は、今日（2024年9月15日）までに2回、オンライン会議を開き、11月には支援させて頂いている能登の支援活動を視察する事が決定しています。

## 5月12日(日)

被災地の復興に大きく寄与されている外国人労働者の方々、とりわけムスリムの方々のために「イスラム国際共同墓地設立」の必要が訴えられています。その実現は困難なのですが、被災地で共に苦楽を分かち合った僧侶の方が相談に乗って下さることになり、仏教・イスラム教・キリスト教の意味深い・地に足の着いた会議を行うことができました。

## 5月18～19日(土～日)

朝祷会全国連合のみなさまを「東北キリシタンツアー」にお連れしました。被災地を覚えていただく良い機会となったと、お手紙を頂き、感謝を深めました。

## 5月27～30日(月～木)

韓国からのキリシタン巡礼団を「東北キリシタンツアー」にお連れしました。大川小学校の周辺はキリシタンの遺跡のある場所です。そこから旅を始め、少子高齢過疎の中で復興に向かう東北を、400年前の日本を軸に、ご案内することができました。



## 6月15日(土)

仙台にて遠藤周作の小説『侍』の読書会を主宰しました。この企画は被災地・石巻を覚えていただくために毎月一度行っているものです。仙台のみならず、全国の方に、オンラインで参加いただいています（ご参加ご希望の方は、是非、東北ヘルプ・川上宛、お知らせください。今、物語はちょうど、折り返し地点に来ています）。

## 6月20日(木)

仙台YMCA国際専門学校の学生約70名を、大川小学校と雄勝ローズ・ファクトリー・ガーデンにお連れしました。大川小学校で亡くなった児童生徒は約70名でした。専門学校の学生の8割は留学生でした。みなさん、深い印象を胸に仙台に帰られたご様子でした。



## 7月9～10日(火～水)

広島で行われたWCRP主催の国際会議「平和のためのAI倫理」に出席しました。「フクシマ」の出来事が訴える「テクノロジーの問題」を提起する発言をしました。アジアから出席した方から「フクシマとは、どこですか？」と問われた事に、強い印象を覚えました。「風化」の現実を、そして、それに抗う責任を、はっきりと思い知らされた事でした。

## 7月11日(木)

日本YMCA同盟「総務担当者会」の研修として、大川小学校をご案内しました。「今更、大川小学校？」という問を同僚から受けて「答えられない」自分だったが、現地に今来てみて「今こそ、大川小学校へ来て良かった」と思った——と、率直な感想を頂きました。

## 7月25日(木)

福島に全国から支援をした。しかし今、それは途切れている——という現実に向かい向かうべく「福島YMCAを設立しよう」という運動があります。その運動を支援するために、日本基督教団福島教会で会議を行い、9月末に福島市で催事を行う段取りをつけました。

## 7月26日(金)

食品放射能計測プロジェクト共同運営委員会をオンラインで開催しました。今の懸案事項は、空間線量計の故障を修理する経費をどのように捻出するか、です。皆で知恵を集めています。よい解決策が得られますように、お祈りください。

## 7月29日(月)

世界各地で教育支援活動を行う「OM船」が女川に寄港できないか、という相談を受け、女川の行政・教育に詳しい方とアポイントを取り、会議を行いました。ドイツからお越しになった担当者の方が、女川の被災地・遺構を見て、強いショックを受けておられました。

## 8月1～2日(木～金)

全国かくれキリシタン研究会の会長を被災地にご案内し、キリシタンの史跡と共に石巻・雄勝・大川の現地を見ていただきました。

## 8月6～8日(火～木)

「3.11」以来ずっと被災地に関わってくださっている広島の和尚様のお招きで、広島市内のお寺にて行われた「平和の集い」に出席し、被災地の現状を報告しました。

## 8月27日(火)

福島県の中通地区を拠点として、低線量被ばくから子どもたちを守ろうと努力を続けている「はっぴーあいらんどネットワーク」の鈴木真理さんとオンラインでお話をしました。その様子は本誌9ページ以下をご覧ください。

## 9月2日(火)

2011年3月に大川小学校周辺の被災者の支援に当たった伊藤牧師と、伊藤牧師と共に被災後の傾聴支援活動を続けた金田和尚様と、大川小学校・橋浦地区・雄勝地区を訪問しました。その様子は本誌5ページ以下をご覧ください。

## 9月3～6日(火～金)

沖縄からお越しになった学生さんを被災地にご案内しました。

## 9月7日(土)

大川小学校の生徒さんたちの中で「助かった4名」の内のお一人が主宰する催事「おかえりプロジェクト」に、ワイズメンズクラブの方々をお連れして、参加しました。

## 9月10～11日(火～水)

日本ナザレン教団社会委員会のみなさまを「東北キリシタンツアー」にお連れし、雄勝ローズ・ファクトリー・ガーデン等、被災地の今も見ていただくことができました。



# なつかしい「同窓会」

大川と雄勝を、牧師と僧侶で再訪する

東北ヘルプ 川上直哉

## 1.

2024年9月1日、日本ルーテル教団福島いずみ教会の伊藤文雄牧師と、曹洞宗通大寺住職の金田諦応老師と、石巻市の大川地区・橋浦地区・雄勝地区を訪ねました。

2011年3月11日の津波によって、石巻市立大川小学校では、74名の児童生徒・10名の教職員が亡くなりました。その「山向こう」に隣接する雄勝地区には石巻市立雄勝小学校があります。雄勝小学校も同様の津波に遭い、発災時に帰宅していた児童1名が亡くなりました。そして大川小学校の「川向い」では、指定避難場所だった北上総合支所で54人が亡くなりました。

これらの地域の方々の「避難所」は、北上川をさかのぼった「河北総合センター・ビックバン」に設営されました。失意と絶望に苛（さいな）まれる人々が、そこに眠れぬ夜を過ごしました。

その「ビックバン」に単身飛び込み、泊まり込みながら支援に当たられたのが伊藤文雄牧師でした。ビックバンでの宿泊が難しくなると、自動車で10分ほどの「橋浦地区」の公民館に寝泊まりし、伊藤先生は避難所の支援を続けたのでした。



石巻市河北総合センター「ビック・バン」

伊藤牧師が「ビックバン」で支援活動を続けていた頃、金田諦応老師は宮城県北で「弔い」に力を注いでいました。私（川上）も仙台で「弔い」のために火葬場に居を定めて物資支援の連絡担当に当たっていました。その後、私たちは、「弔い」の先にある「グリーンケア」のために「心の相談室」を立ち上げ、共に支援活動を展開しました。

あれから13年半の時間が過ぎました。

2024年、「隠退していた伊藤牧師が、福島市の教会の牧師として現役復帰した」という知らせを、私はびっくりしながら、受けました。もう米寿を超えていたはずです。驚きつつ、お訪ねました。なるほど、福島です。伊藤先生は大きな桃を一個（！）まるごと並べて歓待くださり、私たちは旧交を温めました。「そうだ、金田さんと久しぶりに会おう！」と話が弾み、「それなら、是非、大川小学校で！」と、話がまとまりました。再開・再訪の日は、9月2日（月）と定められました。

## 2.

仙台駅で、伊藤先生をお迎えしました。「13年前と、全然違う」と、特にこの10年で再開が進んだ仙台駅東口の様子に驚いておられました。「でも、ここは知っている」と、少しうれしそうにお話になりながら、私たちの自動車は石巻を目指しました。

大川小学校には、金田先生がお待ちになっていました。風の強い日でした。太い蜘蛛の糸に、枯れた木の葉が一枚つながって、風に吹かれて空中に留まり、旋回していました。「何か、大切なことを、私たちに伝えているようだ」と、金田先生がつぶやきました。「亡くなった子どもたちのランドセルが、きれいに並べられていたのは、このあたり・・・」「裁判もあった。でも、災害はすべて、白黒で割り切れるものではない。その割り切れない思いを抱いて、私たちは生きている・・・」そんなことを、お二人はお話になっていました。



## 3.

「どうしても、行ってみたいところがある」と、伊藤先生がおっしゃいます。「あの橋を渡った先で、私は世話になったのです」と。「それがどこか、どうも、はっきり覚えていないけれど・・・」ということですから「それでは行ってみましょう」と、私たちは大川小学校を出て北上川を渡り、対岸の「橋浦地区」へ行きました。





13年前から、すっかり変わってしまっているような。でも、何か見覚えがあるような。

過疎化の激しい街の中を、ゆっくり自動車を走らせると「あ」と伊藤先生がおっしゃいます。「ここだ」と、自動車を止めて、大きなおうちに入ります。13年前と変わらない様子。でも、お留守のようでした。

がっかりして、そこを離れようとしたとき、一台の軽自動車がやって来ました。ご夫婦と思しきお二人が、こちらを見つめて挨拶をしてくれます。「あるいは！」と、ご挨拶をしますと、ほどなく「あ！」と、お互いに思い出され、喜びを交わされました。

伊藤先生が13年前に「ビックバン」の避難所を支援されたとき、この「橋浦地区」の公民館で寝泊まりをした。その支援者を広く受け入れて支援したのが、このお宅でした。「よく覚えていますよ！」とお話になり、「さあ、あがらいん（あがってください）。おちゃっこでも！」と、歓迎してくださいました。

大きなスイカを畑から取って来てくださり、「食べて！」と歓待くださりながら「今でも、仙台や遠くの方々が、母の日には、花をもって来てくれるのです。お母さんが死ぬまでは、続けると、そう言ってくださるのですよ」と、嬉しそうにお話になるご夫妻に、13年の時間の流れが実感されました。それは風化の時でもありますが、しかし、風化しない想いも、ここに確かにある。そのことを知らされました。

#### 4.

その後、私たちは雄勝に自動車を向けました。雄勝の「巨大堤防」に立ってから、瓦礫の残る中で再建を志し、2012年9月に再開したお蕎麦屋さん「てらっばだけ」で昼食を摂り、そして「海岸線の美術館」に雄勝の皆様の不屈の心意気を感じてから、「雄勝ローズ・ファクトリー・ガーデン」に向かいました。



上：巨大堤防に立つて  
左：堤防に描かれた絵画を展示する  
「海岸線の美術館」  
下：お蕎麦屋さん「てらっばだけ」



教諭として雄勝小学校で津波と避難を体験した徳水博志さんと、お連れ合いの利枝さんご夫妻が、私たちを迎えてくださいました。巨大堤防をはじめとする復興の矛盾の中で、しかし「いろいろなボランティアが結集して、人間の業を超えたものが働き、今に至っています」と、博志さんは意気軒昂でした。

「70代・80代の女性たちが、ここでスタッフとして活躍しています。みなさん、『森の妖精』と呼ばれて、とてもお元気ですよ」と、利枝さんは嬉しそうにお話してくださいます。



最後に、そこで交わされた言葉の中で、印象に残ったものを、以下に記します。

「海は、1000年に一度、こうして苦勞を強いてくる。でも、999年は、本当に恵んでくれる。それでいい。と、この地域の人々は語ってきたのです。」

「大川小学校には、たくさんの知人・友人がいた。その関係者の声も、直接に聴いている。色々な立場があり、いろいろな13年があった。そのどれも、矛盾の中にあつた。そのどれも、誰にも否定できるものではなかつた。」

「支援してもらっているだけでは、人は元気になれない。」

『行く所があり、やる事がある。幸せだ!』と、みなさん、おっしゃいます。」

「最初に石巻市内の大学キャンパスにテントを張って支援活動をしていた私に、雄勝の方が、ピックアップに来てくれと、相談に来たのが始まりでした。掃除や食事などを手伝いました。そのうちに『おじいちゃん』と呼ばれるようになったのでした。」

「大川小学校は、化石化していると感じた。そこに、息吹を与えなければ、歴史がつながらない。色々な想いが生きている。そうして、歴史は繋がる。そうだ。見えない霊たちは、決して、黙っちゃいないはずだ。」



# 自分の言葉で、子どもたちを守るために

## 「はっぴーあいらんどネットワーク」の学習会

2011年以來、「福島」という言葉は「原発事故」と切り離せなくなっていました。でも、「福島」は「幸福の島 (Happy Island)」という名前です。原発事故だけの場所ではない。現実から目をそらさず、でも、未来を見つきたい。そうした複雑な努力を積み重ねてこられた方々が、福島県には、たくさんおられます。

現実から目をそらそうとする力に抗いながら、でも、現実の奥にある未来を探す。福島県須賀川市にある「はっぴーあいらんどネットワーク」という団体は、まさに、そうした活動を続けてこられました。インターネット放送を中継・配信し、ダンスのワークショップを開催し、演劇を仕立て、フェスを行い、甲状腺検査を継続しながら、福島県の県民健康調査検討委員会を専門家と一緒に「検討」し続ける。多岐にわたる活動の中心に、鈴木真理さんがいます。鈴木さんは「いわき食品放射能計測所・いのり」で協働くださっている「ママベク」の千葉由美さんと、オンラインの勉強会を進めておられました。

オンラインの学習会は「武谷三男から学ぶ原発事故後の『福島』」です。学習会はZoomで行われ、その様子はYoutubeで公開しています。

その学習会について、オンラインで、お話を伺いました。一人でも多くの方に、この学習会に触れていただければと願って、以下、インタビューを掲載します。

2024年9月1日 川上直哉 記

川上：

「武谷三男」という科学者から学ぶ、という会を進めておられますね。

鈴木さん：

はい。原発事故のあった2011年まで郡山で整形外科の開業医をしていらっしゃった種市靖行先生と、「武谷三男研究」の専門家の八巻俊憲先生、そしていわき市の千葉由美さんとで、オンラインの勉強会を、1年くらい前から、月一回、続けています。最初は『安全性の考え方』という1960年代の岩波新書の本をテキストにして、今はさらに深く広く議論をしています。

川上：

私は、立教大学で長く学びました。「武谷三男」という人は、立教大学では有名人です。つまり「立教大学に原子炉を導入した人」ということで、私たちの間では、批判的に見られていました。

鈴木さん：

はい。武谷という人は「原子力の推進派」とされています。でも、実際に語っていることを見ると、学ぶべきことをたくさん示している人でした。

川上：

私も、今回、このインタビューのために勉強してみて、自分の中にある偏見を知らされ、恥ずかしくなりました。武谷さんは、1945年まで、ずっと「原子力爆弾」開発の第一線に立ち、世界的なレベルで研究をしていた。そして敗戦となった。どのように平和に貢献できるかを考え「原子力三原則」の基となる考え方を提示した。そして高度経済成長が起こり、公害が起こった。その時、武谷さんは科学の正しい使い方を模索する。そして、その後輩たちの中から、公害に立ち向かう科学者が出てくる。その成果の中に、私たちを励ますたくさんの言葉が残されている——そんなことを、私は皆さんのYoutube番組で学ばせていただきました。

川上：

世の中にはいろいろな立場の人がいる。みんな、自分と同じ立場ではない。そして、それぞれの立場から、誠実に問題と向き合う人がいる。他方で、残念ながら、不誠実な人もいる。学ぶべき人を自分で探し、聞くべき意見を見つけ、広く聞かなければならない。そんなことをまず、私も武谷三男さんの本から、今回、勉強させて頂いたと思います。

鈴木さん：

武谷三男さんの議論を深く掘り下げると、日本の現代史と原子力とのかかわりがよく見えてきます。そして「公害」と向き合った60年前の科学者たちの真摯な努力も、よく見えてきます。その努力の延長線上に、私たちもいる。そう学ぶことで、新しい力を得られます。



左が  
鈴木真理さん。

右の川上が  
手に持っているのが、  
武谷三男  
『安全性の考え方』  
岩波新書、1967年。

川上：

いわき市の市民団体「ママベク」の千葉由美さんが、録画された学習会の中で言っておられたことが、印象的でした。つまり「私たちは、行政と向き合って、子どもたちを放射線被ばくから守ろうとしている。その時、何とかして『自分の言葉』で、問題を指摘して、改善してもらわなければならないのだけれど、それが難しい。だから、勉強しなければならない」と、千葉さんはおっしゃっていました。

鈴木さん：

私たちの学習会は、何か結論を得ようとするものではありません。むしろ「とりとめもなく」議論を進めます。その中に、大事なことがあるように思われるのです。

川上：

医師の種市先生の存在も大きいですね。

鈴木さん：

はい。種市先生は、原発事故後、いろいろな事があって、福島県から石川県へ転居され、開業医を辞めて勤務医となられました。それでも、福島県内の人々の苦労を思ってください、毎月、福島県

郡山市や須賀川市へ来てくださって、甲状腺検査を続けてくださいます。そして、私たちの「学びたい」という思いに答えて下さり、八巻さんを招いて、とても素晴らしい勉強会を進めて下さっています。

川上：

まずは1967年発行の岩波新書『安全性の考え方』の読書会から始めましたね。

鈴木さん：

この本を通して、今起こっている事柄が、過去日本で起こった出来事と「そっくり」だと感じました。ということは、そこに手がかりがあるのです。これで、前に進めると思いました。公害問題、特に水俣病の問題は、福島原発事故に、はつきり、つながっています。福島県の甲状腺検査検討委員会に、水俣病の問題で最近大きな物議をかもした環境省の官僚が出席しているのですが、その方が、会議の流れの全体を決めるような役割を果たしています。この事は、とても象徴的だと思っています。

川上：

「公害」こそ、実は、福島原発事故後の私たちにとって、未来への鍵になりますね。

鈴木さん：

そうなんです。福島原発の事故が「公害」として認められていない現状があるのです。これが、事態の改善を阻む「壁」になっています。逆に言えば、ここに、未来への鍵もあると思っています。

川上：

壁を、突破しなければなりませんね。

鈴木さん：

今現在でも「380人」の甲状腺がんの子どもたちがいるのです。それでも「問題ない」とされている。このおかしさ。でも、その意味が、少しずつ分かってきました。過去との繋がりの中で、今の私たちの「現在地」がわかる。そんな手ごたえを感じています。



武谷三男から学ぶ原発事故後の「福島」  
590 回視聴・1 年前

はっぴーあいらんどネットワーク

武谷三男から学ぶ原発事故後の「福島」 日時：2023年



Youtubeで「武谷三男」「はっぴー」と、検索ください。  
あるいは、右のQRコードからも、ご覧いただけます。



川上：

学習会には、手ごたえを感じているのですね。

鈴木さん：

はい。確かに、力になっています。私たちの場合、生活する立場ですから「科学的なこと」よりむしろ「権利の主張」が大事になります。それなのに「科学的なこと」に話をずらされてしまう。そうならないために、私たちが学ばねばなりません。その手ごたえを、感じています。

川上：

勉強会は「はっぴーあいらんどネットワーク」という団体が主宰されていますね。

鈴木さん：

はい。私たちは今、20人くらいです。2011年6月以来ずっと、活動をしているのです。



- 健康相談会と甲状腺エコー検査を、毎月行う。
- 子どもたちのダンスチームをもって、子育て世代の親御さんと交流の場を持つ。
- オンラインでの勉強会・ワークショップを主宰する。
- 演劇プロジェクトを展開する。

という活動になっています。

運営は、口コミだけで、寄附を頂き、続けています。助成金も活用しますが、いろいろな制約があるので、それは最小化しているのです。



上：毎月行われている「甲状腺エコー検査」

左：「はっぴーあいらんどネットワーク」のダンスチー

川上：

寄附は、減りましたでしょう。

鈴木さん：

はい。原発事故当初は、本当にたくさん、助けていただきました。でも、もう、今は・・・活動は、苦しいです。でも、やるべきことができるように、努力を続けています。もう13年の時間が経っています。たくさん、この土地から避難して行った仲間を見送りながら、寂しい思いを抱きしめながら、でも、続けています。

川上：

続けるにあたって、大切にしていることは、何でしょう。

鈴木さん：

「原発問題だけ」を頑張っていると、何か大事なことを置き忘れてしまうように思います。「自分たちは、いったい、何のためにやっている」か、を、忘れないようにしたいと思います。「被ばくした子ども

もたちが、子どもを産み・子育てする中で、現実をきちんと一緒に見つめるために」私たちは、活動を続けているのです。「この子たち」のために何をしなければならないかが、一番大事なことだと思います。ですから、相談を受けられる自分たちであり続けたいと思います。そう思って、ダンスや演劇、そして親子での体験活動など、豊かで楽しい活動を、できるだけやっていきたいと思っています。先日は「親子で土偶づくり」の時を持ちました。楽しかったですよ！

川上：

課題は大きいものですから、つい、肩に力が入って、そして、硬くなって、「立場の違い」が気になって、仲間割れも起こる・・・というのが、市民活動の弱点かもしれません。しなやかに、その問題をすり抜けて行かれる。そのコツは、今おっしゃった「大切にする一点」にありますね。また、学ばせていただきました。

本当に、ありがとうございました。

「はっぴーあいらんどネットワーク」が勉強会で注目している武谷三男さんは「原子力三原則」の考え方の基本を提示した学者でした。「原子力三原則」は、原子力問題処理の原則として昭和29年（1954年）春の日本学術会議第17回総会で決定されたものです。内容は次のとおりです。

- すべての事柄を公開で行うこと
- 日本の自主性を失わないようにすること
- 民主的に取り扱い、かつ民主的に運営すること

日本国政府は、この「三原則」に基づいて（あるいはそれを利用して）「原子力基本法」を制定・施行して現在に至っています。ですから、福島第一原子力発電所の爆発事故に当たり、日本学術会議には応分の責任があると言えます。

東北ヘルプの川上は、2015年、日本学術会議に招かれて講演をし、以上の点を、「お母さん」たちの現場から語りつつ、指摘しました。その講演は「ほつれる心：原子力災害の現場における支援について」『学術の動向』2016年1月号、59～62頁に掲載されています。この講演はインターネットに公開されています。上記タイトルを検索下さるか、右のQRコードから、ご高覧いただくことができます。



風化に抗うために、歩く

## トレッキングのお誘い

「3.11」の被災地を、私たちは、どれくらい知っているのでしょうか。

もう13年半もの間、「東北ヘルプ」の実務担当者をしながら、「自分は何も知らない」ということを、たくさん、知らされています。

あちこち、自動車で走ったのです。数年で自動車のメーターは20万kmを簡単に破します。でも、「え！」と思うような、本当に新しい発見が、東北にはたくさん、まだまだ残されています。

「日本アルベルゲ協会」という団体があります。スペインの巡礼路「サンチャゴ・デ・コンポステラ」をトレッキング（徒歩で巡礼）する人々のための簡易休憩所を「アルベルゲ」といいます。日本には「お遍路さん」があり、巡礼の歴史は古い。そして2019年6月、東北の被災地の道を「一筆書き」でつなぎトレッキングができるように整備した「みちのく潮風トレイル」が、全面開通しました。このトレイルコースを巡礼路として歩むための簡易休憩所を作ろう！と設立されたのが「日本アルベルゲ協会」でした。

東北ヘルプは、この運動に協力したいと思いました。どのように？——と考えて、「では、まずは、一緒に歩きましょう」と、決めました。日本アルベルゲ協会の芳賀繁浩さんと、私とで、南の起点である福島県相馬市から、歩く。

ボランティアのご協力を得て、自動車ですスタート地点まで運んでいただき、そして、その日の終点（だいたい、10kmくらい、歩きます）でお待ちいただく。そして、ゆっくり歩く。すると、新しい発見が、次から次へと・・・そんな試みが始まっています。

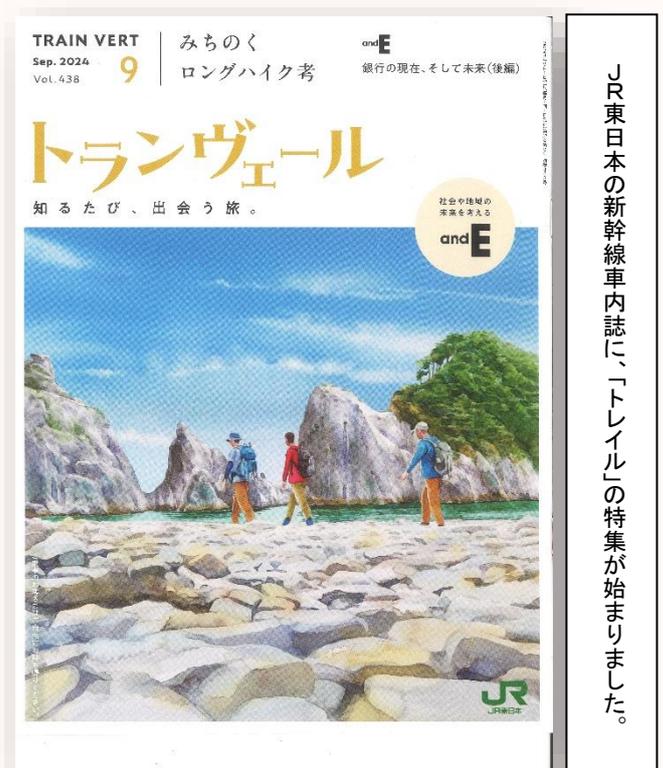
これまでに3回、私たちは歩きました。

今回は11月4日（月・祝）です。朝9時に仙台駅に来ていただける方であれば、どなたでも、ご一緒いただけます。

11月に歩いた後も、私と芳賀さんの都合を合わせて、どんどん、歩いて行きます。「11月4日は難しい」という方も、どうぞ、ご連絡をください。「その次」が決まり次第、ご案内します。毎回、夕方4時には仙台駅に戻ることができます。

「3.11」を風化させないために、歩く。是非、ご一緒に！と願います。

私たちのトレイルにご参加希望の方は、  
どうぞ、東北ヘルプまでご一報ください。



JR東日本の新幹線車内誌に、「トレイル」の特集が始まりました。

風化に抗うための読書

# 「放射能問題学習会」のお誘い

このニュースレターを作り終えようとした2024年9月19日の午後、私は

「ご存じの通り、燃料デブリの取り出しが、失敗しました。」

——という言葉を見ました。「福島県キリスト教連絡会」の友人が主催するオンライン学習会でのことでした。そこで、その友人は、上記に続けて、こう話されました。

「こちら福島県内では、『いよいよ』という期待が高まり、高い注目を集めながら、『まったく、だめだった』ということで、県民の間に失望が広がっています。」

でも、私は、そのニュースを知らなかったのです。もう13年半も原発事故被災地に関わりながら、私のアンテナは、その「大ニュース」を捉えていなかった。

その日の学習会では、担当者によって『差し迫る福島原発1号機の倒壊と日本滅亡』題されたちいさなパンフレットが紹介されました。2023年12月に出版されたもので、著者は「原発の構造設計」にも携わった現場の技術者でした。爆発した福島原発第一号機の足許のコンクリートがはげ落ちており、今は、ただ、建屋の自重で現況を保っているに過ぎない状況である。それを、東京電力が2022年6月に報告した。それは広く報道された。さあ、倒壊の前に対応をすべきだ——そう国会議員と意見具申したのだが、政府は「東京電力に任せている」という応答だけをして、反応を示さなかった。

ものすごいたくさんの「しがらみ」が、原発を巡って、たくさんの人々をがんじがらめにして、今日も合理的な対応を阻んでいるのでしょうか。そうした事を、一つずつ、この「放射能問題学習会」で、私たちは学んできました。そうした事を丁寧に語る本を、みんなで読み、話し合う。そんな会が、福島から、オンラインで続いています。



「放射能問題学習会」にご参加希望の方は、どうぞ、東北ヘルプまでご連絡ください。

もう50回も・もう10年も、そうした学びを続けてきました。毎回、「なぜ？」という疑問が解け、そして、「でも、なぜ？」という疑問が湧く。そんな学びを続けています。

次回は11月28日(木)午後2時からです。Zoomが使える方であれば、どなたでも、ご一緒いただけます。

11月は、重松清さんの小説『希望の地図』と『希望の地図2018』のブックビューをします。私も、その担当者のお役をお預かりしています。丹念に「津波」と「原子力」の被災地取材された小説。「引きこもりの中学生」が立ち上がって行く物語です。

「3.11」を風化させないために、読む。是非、ご一緒に！と願います。

# 献金感謝

2023年8月12日～2024年9月12日の期間、下記の皆様から、  
貴いご献金をお預かりしました。献金は、祈りそのものと、心得ています。  
賜りましたご厚志に、深く感謝を覚え、ここに御芳名を記します。

NPO 法人東北ヘルプ 川上直哉

大曲ルーテル同胞教会 菅原優子 日本基督教団新生釜石教会 山保浩之  
時宗不退山長徳寺 住職 渋谷真之 遺愛女子中学校高等学校 北海道キリスト教会  
北海道キリスト教会 牧師 黒澤貞子 世の光キリスト教会 日本キリスト教会釧路  
教会 熱田洋子 釧路キリスト福音館 支倉清 佐藤美緒 川嶋直行  
東洋英和福島の子ども支援プロジェクト「虹の橋募金」 清水恵子 大井美歩  
会計蒔村美子 東洋英和女学院気付 日本基督教団下谷教会 代表役員藤田義哉  
有限会社ワタヌキ・ときの忘れもの 日本キリスト教団 青戸教会 子ども礼拝  
原宿教会 子ども礼拝 長野由紀 中山慶介 長谷川鐘 東京カヴェナント教会  
大日本キリスト教団頌栄教会 日本同盟基督教団世田谷中央教会 虎川清子  
日本キリスト教団東京都民教会 日本キリスト教会東京告白教会 教会学校  
日本基督教団新宿西教会 牧甫 大倉一美 久園基督教会 竹本栄子  
日本基督教団杉並教会 松浦賢治 聖書友の会 巣鴨聖泉キリスト教会  
武田光世 佐々木宏子 日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会 大日方由美  
木村葉子 古谷圭一 石井智恵美 金井美智子 国際基督教大学教会  
塩田明子 塩田隆良 大谷尚子 水永晃子 (ICU 教会) 恋が窪キリスト教会  
日本福音基督教団保恵キリスト教会 日本同盟基督教団 恋が窪キリスト教会  
高桑雄一 郁子 藤原俊樹 日本基督教団小平学園教会 村田藤江 高橋みどり  
由木キリスト教会 浜口紹子 永井敏夫 よろこび研究会 代表 奥田英男  
堀内洋子 松井弘子 美野川芳枝 細井孝江 日本キリスト教団横浜上原教会  
日本基督教団六角橋教会 入江修 塩田瑞代 宮澤玲子 (柏木教会)  
日本基督教団田園江田教会 日本キリスト教会鶴見教会 日本基督教団横浜指路教会  
横浜海岸教会 上山修平 日本キリスト教団蒔田教会 岡本連三 福井紀子  
日本キリスト教会横須賀教会 岡進 宮坂信章 稲毛海岸教会 武田和美  
日本キリスト教団 美浜教会 子どもたちの教会 大谷信子 佐藤由紀夫  
日本キリスト教団松戸教会 日本基督教団市川三本松教会 磯田幸子 倉石昇  
山中伸郎 猪刈由紀 細田あゆみ 川上政孝 日本キリスト教団四街道教会  
新津テイ子 日本キリスト教団取手伝道所 宮崎昌久・せい子 田村修也  
日本キリスト教団四條町教会 日本基督教団西那須野教会 シュノタメニ  
認定こども園西那須野幼稚園 オリーブの木キリスト教会 萩原恵子 井形英絵  
菊地淑介・みどり 杉澤卓巳 特定非営利活動法人福音の園・埼玉 理事長杉澤卓巳  
若月学 関根悠紀子 日本キリスト改革派新座志木教会 中川春美 有山敏  
星野房子 小山千恵 大村貞文 中村忠男 日本キリスト教団甘楽教会

バルナバ館 山田節子 井出すみ江 日本キリスト教団軽井沢追分教会 岩間孝吉  
 日本キリスト教団松本教会 日本キリスト教団山梨教会 及川信 井本克二 森重男  
 富士吉田キリストの教会 羽野浩雪・環 竹下博美 鈴木淳司 加藤啓子  
 小坂井勉 名古屋キリスト教社会館 理事長湧井規子 大藪博康 原科浩  
 日本キリスト改革派教会名古屋岩の上教会 名和真理子 伊藤まり子  
 日本基督教団名古屋中央教会 日本キリスト教団天白教会 牧師 渡辺徹朗  
 日本キリスト教団南山教会 渡辺真悟 南部哲男 上野緑ヶ丘教会  
 本村大輔 日本基督教団天満教会 小林和代 大宮まぶね保育園 大阪救霊会館  
 大阪栄光キリスト教会 代表 土屋正幸 在日大韓基督教会全国教会女性連合会  
 清水智美 日本基督教団池田五月山教会 日本バプテスト宣教団池田キリスト教会  
 似田兼司 藤田直子 生島幹也 田村仁美 今川泰彦 水野美子 香里教会  
 今川泰彦 日本基督教団枚方くずは教会 日本自由メソヂスト布施源氏ヶ丘教会  
 日本基督教団同志社教会 野牧一弘 日本キリスト教団京都上賀茂教会 國兼光子  
 日本基督教団鴨東教会 国際シャローム・キリスト教会 在日大韓基督教会京都教会  
 女性会 水本典子 春名克容 藤本りか (奈良 YMCA) 阿部克己 光田隆代  
 日本基督教団神戸聖愛教会 日本キリスト改革派鈴蘭台教会 日本基督教団須磨教会  
 神戸改革派神学校学生会 代表者小橋口貴人 占部太 荻原邦子 岩間節子  
 日本基督教団西神戸教会 榎本聡子 西牧夫 あゆみ 朝倉文子 吉田伸  
 社会福祉法人イエス団みどり野保育園 中田一夫 日本基督教団尼崎教会 河内常男  
 弁護士法人 弁護士 津久井進 日本基督教団西宮一麦教会 福西章 瀬戸昭  
 日本基督教団はりま平安教会 三浦克文 宗教法人日本キリスト改革派岡山教会  
 日本キリスト教団児島教会 佐竹早苗 高松シオン教会 芳我秀一 青柳芳明  
 日本キリスト改革派徳島教会 柏原繁宣 日本基督教団門司大里教会 柴田公文  
 日本キリスト教団小倉徳力教会 日本キリスト教会福岡城南教会 金子純雄  
 濱地正枝 宮井武憲 日原広志 井上和人 袖之原寛史 吉田正子  
 日本福音ルーテル健軍教会 改革派熊本伝道所財務本多ミヨ子 敬和学園高等学校  
 幕田君江 伊東美香 菅野民江 福島キリスト教連絡会放射能対策室  
 鈴木則雄 木田恵嗣 金南植 新里・鈴木法律事務所 太田伸二 加藤重雄  
 尚綱学院高等学校 鷹平恵美子 赤崎克俊 石巻広域ワイズメンズクラブ 清水弘一  
 菅山あつみ 金子哲夫 仙台北教会 早坂まゆみ 渡邊邦子 鈴木みね子  
 山室誠 栗原健 尚綱学院大学宗教部 福田一彦 佐藤玲子 佐々木公明  
 辺見トモ子 日本バプテスト連盟南光台キリスト教会 つばめさわキリスト教会  
 日本キリスト教会仙台黒松教会 阿部頌栄 李貞妊 石井龍子 徳水博志  
 日本基督教団石巻栄光教会 一般社団法人シャロームいしのまき 上野栄久  
 白皇寺 (氏家栄宏) 石丸靖子 南部正光 IGL 広島福音教会 小原武夫  
 青山学院女子短期大学同窓会 川本龍資 菊地ベイジー聖子 久宝まぶねこども園  
 小杉澄子 櫻井志穂子 柴田公文 地域支援ネット架け橋 千葉一夫  
 東京むかでワイズメンズクラブ 東北学院大学 東北ランドコーディネーター  
 奈良いずみ 西千葉教会 日本キリスト教団京都南部地区 岡崎茨坪伝道所  
 日本キリスト改革派東広島伝道所女性会 細川富代 インマヌエル深川キリスト教会  
 匿名 (多数)

(以上、順不同)

# 会計・財務報告

現在、東北ヘルプは「年間 500 万円」の予算で活動をしています。  
東北ヘルプの活動は、主に三つに分けられます。

**第一は「訪問・傾聴」**です。

現場に足を運び、支援者と出会い、丁寧にお話を聞く活動です。  
この活動によって、被災地の「今」を知ることができます。

**第二は、「啓発・広報」**です。被災地の「今」を発信します。

ニュースレターを発行し、講演を行い、被災地を案内します。  
この活動によって、具体的に「風化に抗う」ことができます。

**第三は、「事務局機能」**です。

多くの被災地の支援団体・個人は、法人格を取得しないための苦勞を強いられています。  
その苦勞を軽減するために、NPO 法人「被災支援ネットワーク・東北ヘルプ」を  
ご活用いただきます。この活動によって、支援者を具体的に支援することができます。  
(今、具体的には「ランドセル献金」として、外部団体の献金をお預かりしています)

以上の活動を継続する中で、みなさまのご献金が力強く生きています。

現在、上記の活動のために、毎月の経費として

「移動と会議」「書籍」「事務・通信費」合計で月額 25 万円以下＝年額 300 万円以下

という目標を立て、

予算の残り 200 万円以上を「支援費」と「ニュースレター発行」に充てる

という方針で、運営しています。

右ページに、2024 年 9 月 20 日現在の状況を、昨年の決算との対照表として、お示しします。  
併せて、昨年度決算時の貸借対照表も、掲載いたします。

皆様のご理解とご支援を、引き続き賜り、

一日でも長く、被災地の支援活動を続けたく願っております。

どうぞ、よろしく願いいたします。

東北ヘルプ代表  
川上直哉

2024年度				2023年度			
	献金件数	献金額	支出金額		献金件数	献金額	支出金額
4月概算	40	¥433,250	¥692,012	4月	39	¥478,339	¥685,446
5月概算	16	¥200,692	¥298,225	5月	25	¥576,389	¥653,840
6月概算	27	¥653,788	¥329,629	6月	18	¥648,782	¥707,291
7月概算	15	¥276,000	¥203,570	7月	9	¥144,630	¥625,156
8月概算	16	¥165,310	¥270,436	8月	15	¥138,413	¥283,208
9/20まで	6	¥121,000	¥268,803	9月	44	¥645,660	¥558,798
				10月	23	¥410,720	¥296,847
				11月	16	¥191,000	¥291,053
				12月	109	¥921,300	¥284,950
				1月	44	¥485,800	¥736,589
				2月	42	¥439,243	¥523,979
				3月	28	¥460,600	¥312,764
	120	¥1,850,040	¥2,062,675	2023年度決算	412	¥5,540,876	¥5,959,921
前年同月比	80%	70%	59%	前年同月比	85%	84%	85%
				2024年9月20日現在の資産			
進捗率				通帳1	¥76,522	※これは ランドセル献金 ↓ 実際の所持金 ¥342,680	
日数	収入(献金のみ)		支出	通帳2	¥319,957		
47%	37%		41%	郵貯口座	¥7,952		
	(500万円の予算対比)			振込口座	¥258,206		
				合計	¥662,637		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
移動と会議	¥70,350	¥197,132	¥68,117	¥103,399	¥118,607	¥143,533	
書籍	¥10,692	¥16,879	¥8,100	¥24,522	¥15,606	¥36,438	
事務費・通信費	¥10,824	¥19,049	¥18,200	¥36,375	¥50,576	¥52,402	
合計	¥91,866	¥233,060	¥94,417	¥164,296	¥184,789	¥232,373	
月平均	¥166,800						

貸借対照表			
2024年3月31日現在			
特定非営利活動法人 被災支援ネットワーク・東北ヘルプ			(単位:円)
科目・摘要		金額	
<b>I 資産の部</b>			
<b>流動資産</b>			
現金預金		1,048,038	
仮払金			
流動資産合計		1,048,038	
資産合計			1,048,038
<b>II 負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
預り金		0	
流動負債合計		0	
負債合計			0
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>正味財産</b>			
前期繰越正味財産額		1,695,182	
当期正味財産増加額		△ 647,144	
正味財産合計		1,048,038	1,048,038
負債及び正味財産合計			1,048,038



## 支援金・献金の受付口座

### 【郵便振替】

02290-8-136273

特定非営利活動法人

被災支援ネットワーク・東北ヘルプ

### 【他金融機関からの振込口座】

ゆうちょ銀行 二二九店

当座預金 0136273

発行責任 NPO 法人 被災支援ネットワーク・東北ヘルプ

代 表 川上直哉（日本基督教団石巻栄光教会主任担任教師・

食品放射能計測プロジェクト 共同運営委員会委員長）

理事 吉田隆（日本キリスト改革派甲子園教会牧師・神戸改革派神学校校長）

理事 田中武司（保守バプテスト同盟西多賀聖書バプテスト教会員・財務担当）

理事 中澤竜生（基督聖協団仙台宣教センター国内宣教師）

理事 秋山善久（日本同盟基督教団仙台のぞみ教会牧師・NPO 法人 セミナーレ理事）

理事 阿部頌栄（日本ナザレン教団仙台富沢教会牧師・仙台食品放射能計測所長代行）

理事 木田恵嗣（ミッション東北 郡山キリスト福音教会牧師）

理事 大島博幸（日本バプテスト連盟福島主のあしあとキリスト教会牧師）

理事 李貞妊（元「東北ヘルプ」職員）

監事 本村大輔（救世軍西日本連隊長）

小河義伸（八王子めじろ台バプテスト教会牧師）

※肩書等は全て 2023 年 8 月現在

Sendai Christian Alliance Disaster Relief Network

# Touhoku HELP



Per crucem ad lucem（十字架を通過して光へ）

〒980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町 1-13-6

TEL/FAX. 022-263-0520 URL : <http://tohokuhelp.com> MAIL : [sendai@tohokuhelp.com](mailto:sendai@tohokuhelp.com)

携帯電話 090-1373-3652